

# 都 退 教 協 だ よ り

No.310号

2022年12月21日発行

東京都退職教職員協議会 会長 谷口 滋

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

## 旧東海道「品川宿」から鈴ヶ森刑場跡まで ゆっくり歩いて歴史と味覚を堪能しました

11月2日、恒例の秋の交流会で旧東海道品川宿から鈴ヶ森刑場まで散策しました。

約一里ほどの道のりを北品川駅から江戸時代と変わらぬ幅の旧東海道をゆっくり歩きました。

遊郭が立ち並んでいた歩行新宿（土蔵相模跡）から参勤交代の大名たちが江戸入りする前の本陣があった聖蹟公園、多くの神



社仏閣が軒を連ねる南品川。そして漁師町として栄えた鮫洲を過ぎ、坂本龍馬や山岡鉄舟も訪れた街道沿いの吉田屋で新そばを味わいました。立会川駅前の坂本龍馬像か



ら立会川にかかる泪橋（処刑される罪人と涙の別れをした橋と伝えられている）を過ぎて鈴ヶ森刑場で、火あぶり、磔刑の礎石や首洗いの井戸などを見学しました。

品川区と大田区の両方に石碑のある大森貝塚まで足を延ばして大森駅で解散しました。

## 軍事費倍増より、不公平税制是正を

私たち年金暮らしの高齢者にとって税金の負担は重くのしかかっています。とりわけ消費税は、生活必需品、食品にも容赦なく課税されています。食料品の消費税は、イギリス0%、ドイツ7%、フランス5.5%、アメリカには消費税がありません。日本の消費税がいかに庶民の生活を圧迫しているかがわ

かります。その上、健康保険料、介護保険料も高額です。

内部留保を500兆円も貯めこんでいる大企業は、大幅賃上げもせず、中小下請け企業を締め付けて利益を上げているのに、自公政権は、法人税を引き下げています。また、自動車などの輸出品には消費税がかからないの

で、消費税なしどころか多額の還付金（トヨタで約8千億円）まで受け取っています。しかも、政府は来年10月から中小零細、個人事業主いじめのインボイス制度（適格請求書等保存方式）を導入します。

一方、岸田政権は軍事費を倍増させようとしています。国会で審議もせずに敵基地攻撃能力などと軍事費倍増を閣議決定しました。その負担を国民の増税で賄うというトンデモないものです。

アメリカは、東アジアで日本を前線に立たせて自らは後方に退く戦略を着々と準備しています。敵基地攻撃能力とは、アメリカに代わって日本が戦争をすることに他なりません。沖縄を始め日本が再び戦場になるということです。そのために、さらに税金を払うなどまっぴらごめんです。

軍事費は倍増するが、社会保障予算は小泉政権以来削減されてきました。国家予算に占める社会保障費は日本で33%。アメリカで

は約50%、英、独、伊、仏では50%以上です。これでは、貧富の差が拡大して当然ではないでしょうか。

赤字国債が膨れ上がる日本の財政は、予算107兆円に対して税收65兆円、新規国債37兆円。国債の利子と元金返済だけで24兆円という火の車です。

それでは、どうすればいいのか？税理士の浦野弘明さんは、不公平な税制を正し、税の原則である応能負担により「法人税、所得税（相続税を含む）、住民税を総合累進課税にただけでも47兆3515億円の財源が生まれる。22年度予算の消費税の税收21兆5730億円がなくても十分な財源がある」と述べています。

軍事費を増やさず、富裕層、大企業への適正な課税をすれば社会福祉も削減しなくて済むということです。

## ジュネーブへ行ってきました！

名谷 和子

### なぜ、ジュネーブへ？

2014年に日本は障害者権利条約（以下、条



STOP!分断教育を訴えた15人

約)を批准しました。条約を批准した国は、2年以内にその履行状況を障害者権利委員会に報告し、さらに4年以内に審査を受けることになっています。コロナ禍で延期されていた初めての日本審査が今年行われました。障害者権利委員会に日本の実態を訴え、日本政府に対してより良い勧告を出してもらうために、8月19日～23日、スイス、ジュネーブの国連本部には、障害当事者を含めた約100人のNGOの仲間たちが集結しました。

私は障害のある子も無い子も共に学び育つ「共育」にこだわり実践を重ねてきましたが、退職後も「障害児を普通学校へ・全国連絡会」(以下、全国連)の運営委員として活動を続けてきています。全国連では、多くの方からカンパを募り国連に派遣団を送りました。私もその一人として3組の障害のある子

の親子とともにジュネーブへ行ったのです。

## 「STOP!分離教育」と描かれた Tシャツを着て

条約には、「インクルーシブ教育」が謳われています。障害の有無にかかわらず、どの子どもも同じ教室で一緒に学ぶことは、能力主義の学校を変えることにもなります。しかし、条約を批准したにも関わらず、日本では、分けられた場で学ぶ子どもたちが増え続けています。文科省が条約のインクルーシブ教育の意味を歪曲し「多様な学びの場に子どもたちを分ける」教育をインクルーシブ教育システムと言ってすすめているからです。



### 日本から参加した 100 人を超えるNGO

全国連では事前にパラレルレポートを提出し、私たちは政府審査会の前に開かれたプライベートブリーフィングで「STOP!分離教育」と描かれたTシャツを着て、

- (1) 日本政府が障害者権利条約を正しく理解すること
- (2) 障害のある子どもの小・中の通常学級への就学を拒否しないこと。知的障害児を排除している高校大学の選抜制度を改めること
- (3) 障害者権利条約に規定するインクルーシブ教育の定義を、日本の全ての教育

者が正しく理解する研修をすること。研修は医学モデルではなく人権モデルとすること。

を具体例を出して訴えてきました。

権利委員の方々からは日本の教育について多くの質問があり、手ごたえを感じて帰国しました。

## 素晴らしい勧告が出ましたが…

9月9日に出された総括所見には、「インクルーシブ教育の意味を正しく理解すること、分離特別教育廃止してインクルーシブ教育にするための国の行動計画をたてること、普通学校が障害児の就学を拒否できないこと

を明確にする『就学拒否禁止』の条項および政策をたてること、インクルーシブ教育を確実にするために合理的配慮を保障すること、障害の人権モデルについての意識を育てることを強く要請する」とあり、私たちの訴えが反映したジュネーブに行った甲斐があったといえる内容でした。

しかし、その4日後、閣議後の記者会見で永岡大臣が「特別支援教育を中止することは考えていない」と発言

したのです。総括所見が出された後のわずかな期間に、文部科学省内でいったいどのような検討をしたのか、その経過も明らかにしないままに、あのような発言をしたことは、国連障害者権利委員会に対する冒瀆に値するもので、条約の締約国としてあるまじきことだと、文科省に抗議文を出しました。

せっかく手にした素晴らしい勧告をどのようにいかしてインクルーシブ教育を実現していくか…。ジュネーブへ行くより、帰って来からの方が大変です。

# 日退教・東北岩手 学習交流の旅

藤崎喜仁

2011年3月11日の東日本大震災から11年半が過ぎた。日退教は昨年に引き続き「東北岩手学習交流の旅」を10月30日～31日に実施し、全国から23名が参加した。盛岡駅新幹線北改札口に集合し、バスは「道の駅とおの風の丘」をめざし出発した。

## 《菅野和夫氏の車中学習会》

菅野氏は現在78才。震災時は大きな津波が来るかも知れないとPCを持って避難したが、ガラスは降ってくる、車は動く、瓦は滑り落ちる、ブロック塀は倒れるなど大変な状況だったと云う。

## 〈三度目の大津波〉

宮城県沖の大津波は明治29（1896）年と昭和8（1933）年に起きていた。

2009年には10年以内に宮城県沖で地震発生確率が70%と云われており、2011年3月9日に三陸沖で3.11の余震と見られるM7.5の地震が発生した。3月10日にはM6.0とM6.4の地震が二度発生した。3月11日には14:46分に宮城県沖M9.0（持続時間170秒）、15:08分には岩手県沖M7.4。15:15分には茨城県沖にM7.6と30分ほどの間に三度の大地震が起きて大津波を発生させた。

大津波は漁港や住宅地、農地など呑み込み死者・行方不明者は2万人以上にもなった。

災害時の海岸や賑わっていた街や人々の暮らしは、三度の連続した大津波で全てが破壊され流されていった。当日の地震や生々しい津波映像を見て、あの時からもう11年が過ぎたのかと時の流れの速さを思った。だからこそ、忘れてはいけないと思った。

東京からボランティアで来ていた大学生が中心となって作った「タイチが跳んだ日」のアニメも視聴した。小学生には是非見て欲しいアニメと思った。

## 〈津波てんでんこ〉

菅野氏の実家は陸前高田市、祖父は「津波がきたら親も子もない」「逃げなかったら若い命が奪われてしまう」家族の誰かを心配しても戻らないことが大切だと語っていたと云う。

「津波てんでんこ」については様々議論されているが、逃げない年寄りを説得して亡くなった人もいる。命を失えば何も伝えられない。率先した避難者にならないと家族、地域が全滅してしまうと語った。バスは遠野市道の駅へ。遠野市は震災時、壊滅的な津波災害を受けた山田町や大槌町などにのべ30万個のおにぎりを届けて支援活動を行ったと云う。

## 《釜石祈りのパーク・いのちをつなぐ未来館》

ここは震災伝承と防災学習のための施設で、「鶴住居地区防災センター」があった場所だ。震災当時ここに多くの住民が避難し、160名を超す犠牲者をだした。この方々を慰霊・追悼する場所として、震災で犠牲となった方々の芳名を刻んだ慰霊碑がある。また、津波浸水の高さ（11m）を示す石碑と、「命を守る」防災市民憲章として「備える」「逃げる」「戻らない」「語り継ぐ」の4つの誓いが刻まれている。

## 《三陸鉄道 鶴住居駅》

「いのちをつなぐ未来館」近くに三陸鉄

道の鵜住居駅がある。昼間は観光客で一両の列車も朝夕は通勤・通学で2~3両になると云う。

駅も列車もカラフルな彩りで、子ども達が描いた絵をモチーフにした花・動物などが描かれている。



鵜住居駅

キャッチフレーズは、「とらい! とらまい! うのすまい!」で、駅の愛称は「トライステーション」だ。

「釜石鵜住居復興スタジアム（旧鵜住居小・鵜住居東中跡地）」は、2019年に開催されたラグビーワールドカップの試合会場だったので「とらい!」で「とら」も描かれている。

### 《釜石鵜住居復興スタジアム》

ここには鵜住居小学校と釜石東中学校があった場所で海の近くだった。地震発生後校舎屋上の避難ではなく、「点呼なしの高台避難」の指示で小学生も中学生も幼稚園児も含め、後ろを振り返らず山道をそれぞれが「てんでんこ」に一目散に逃げた。

しかし、津波は目前に迫ってくる。児童生徒たちはいくつかの避難場所を経由しつつ、更に高台に逃げて、1・6Kmの道のりを40~50分かけて走り続けたと云う。住民を含め600名もの命が助かった。

これを「釜石の奇跡」とメディアは伝えた

が、奇跡ではなく日頃から住民と一体となった防災訓練や防災教育の当たり前の結果だったと云う。

### 《黒沢克行氏の車中学習会》

2日目は岩手高 黒沢克行氏のガイドで、津波被害を受けた当時の大槌町・山田町の状況や今の復興の様子を車窓から見て学ぶ学習会だった。

大槌町は高さ10mもの巨大な防潮堤に町全体が囲まれ、海が見えない。山側の高台には新たに住宅地が作られ、ここからだと言ええる。

漁で生活する人々にとって、海が近くになると不便も感じる。

山田町の田の浜地区も巨大な防潮堤に囲まれている。やはり、住居は高台移転され安心ではあるが不安もある。2019年の台風19号で山津波が発生し、町を囲む防潮堤がダム同様の役割になり200戸が埋まってしまった。その場所はいま空き地となっている。

### 〈避難所運営の教訓は〉

黒沢氏は震災当時、大槌高校に勤務していた。震災当日何度も襲ってくる地震と校舎が壊れる物が落下してくる状況。住民や近くの小学生が次々に避難してくるさなかに、津波が目前まで襲ってくる。その時の凄まじい状況を克明に記録した「三日坊主の日記」は、ドキドキ・はらはらと読んだ。避難所運営に関わり様々な課題と向き合い、解決の糸口を見つけ出していく。また避難する人々の意識をどう変えて、協力する側の立場になって貰うのか、黒沢氏の奮闘が伝わる。芸能人の慰問にも苦言を呈する。ほんの2~3曲だけ歌い、炊き出しの手伝いも後片付けもせず去って迎える側の立場の大変さも記している。

また、ひょっこりひょうたん島のモデルとなった蓬莱島や鳴き砂で知られている吉里吉里海岸も案内していただいた。そこからの海岸線は巨大な防潮堤が長く高くそびえ立ち、子ども達が描いた大きなクジラの絵がホッとさせてくれる。

### 《田老の巨大防潮堤 万里の長城は》

宮古市田老地区に向かう。旧田老町は明治29（1896）年に水位15mと昭和8（1933）年に水位10mの大津波の被害をうけた。その教訓から高さ10m、長さ1350mの第一防潮堤を



#### 田老の防潮堤

S9年～32年にかけて完成させた。更にS37年～40年にかけて同じ高さで582mの第二防潮堤を。翌S48年～53年にかけて501mの第三防潮堤を完成させた。総延長2.4Kmの日本一の防潮堤である。住民は「万里の長城」と呼んでいた絶対的な信頼を寄せていた。

だが、3月11日の大津波は容赦なく防潮堤を乗り越え破壊して181人の命を奪った。

#### 〈二分された町の復興は〉

ここからは学ぶ防災ガイドの元田さんの案内である。

目の前に巨大なコンクリートの壁がそびえ立つ。鉄の階段を登った上には、震災後築かれた高さ14.7mの防潮堤だ。真下には真新しい野球場がある。

山側の高台には住宅地が作られ、海側には漁業関係の建物や設備が見える。

地震発生当時、学校には300人が避難していたが津波は見えなかった。更に山の上を目指して避難し難を逃れたと云う。被災した戸数は1700戸だが、山側には被災していない家もある。家が流された人たちは借金を抱えゼロからのスタートだが、家が残った人たちはその心配がない。家族や親族を失った人と被災から免れた人たちで町は二分された。町は復興に向けて、人々の意識や心を一つにする必要に迫られた。そして今、町全体を震災遺構として一緒に学ぶ数々のイベントに取り組んでいる。

#### 〈津波遺構 たろう観光ホテル〉

ホテルは2Fまでむき出しの鉄骨だ。3Fは壁の一部が残り、5Fから6Fは部屋が当時のまま残されている。4Fまで浸水したが2Fまで鉄骨を残し倒壊しなかった。2Fまであった設備が流され、鉄骨だけになって海水が通り抜けたと云う。奇跡としか言いようがない。地震発生と同時に「たろう観光ホテル」の社長は、従業員を帰宅させ自分一人がホテルに残った。地震から既に30分経ち津波の襲来が予想され戻ることも出来ない。もう逃げられないと覚悟を決めて、6Fに上がり買ったばかりのカメラを海に向け続けた。

#### 〈防潮堤を乗り越える津波映像〉

ホテルの6Fの各部屋は当時のままだ。この一室でガイドの元田さんから震災学習を受けた。社長が命を賭して映した津波襲来の映像は、学習に参加した方だけが見ることが出来る。

映像では防潮堤で津波が見えないので、避難途中で家に戻る住民や車の往来も見える。「逃げろー」と社長は叫ぶが声は届かない。

明らかに防潮堤は第一波の津波を防いでいた。その間逃げる時間はあった。しかし水か



たろう観光ホテル 鉄骨

さはあつという間に増してきた。海水は防潮堤を乗り越え街並みを一気に飲み込んだ。海から迫ってくる津

波の威力の凄まじさは映像でしか伝わらない。そして津波はホテルを直撃して激しく揺れ動かす。社長は立つことが出来ず、もう映像は撮れない。

宮古市はこのホテルを「津波遺構」として残すことを決めた。ホテルは国が指定した第1号の震災遺構となった。

#### 《地底湖 龍泉洞》

日本三大鍾乳洞。橋の下は龍泉洞から流れた水が勢いよく流れる。入り口から入ると地下水の流れがあり、岩に挟まれた狭い道の真上は、白っぽい石灰岩の奇岩がみえる。広い空間もあり、滝のような流れの地下水もあった。洞内には造形美の美しい奇岩や鍾乳石があちこちにあり見る人の目を引く。

地下水は青く深い透明度がある。水深98mの第三地底湖は、吸い込まれるような深さと色合いが素晴らしく見応えがある。洞窟の総延長は4088mで整備され公開されているのは

700mである。

紅葉真っ盛りで周辺の日々や直ぐ側の風景も素晴らしかった。

#### 《戴いた写真集 DVD 映像など》

- ① 〈3.11 山田の記録 写真集〉
- ② 〈3.11 山田町の記録 大震災私記〉
- ③ 〈黒沢克行氏 三日坊主の日記〉
- ④ 〈大津波映像のDVD〉
- ⑤ 〈大蹇朋来のTシャツ〉
- ⑥ 〈東北岩手学習交流の旅 DVD〉

#### 〈終わりに〉

昨年と二度続けての参加でした。戴いた津波映像を見て、津波から逃れるには、誰よりもいち早く逃げる。自分が助かることが一番大切。戻って助かる命を失わないことで「つなみてんでんこ」の言葉の持つ意味の深さを再認識した。

「釜石の奇跡」と称されて鶴住居地区は昨年も訪れた場所だ。鶴住居小学校と中学校のあった場所は復興スタジアムになって学校は高台に移転された。てんでバラバラに逃げた道の最初は細く狭かった。この道を歩き高台まで避難する、現地体験プログラムも用意されている。

「田老の防潮堤」と「たろう観光ホテル」は機会があれば是非行って欲しいと思った。

二日間の行動を受け入れて下さり、書籍や資料・映像など準備して下さった岩手退教連の役員の皆様に深く感謝申し上げます。

## 会費・カンパを振り込んでいただき、ありがとうございます。

### 会費を納入してくださった方々（敬称略）

兒玉喜代子、深澤和子、小林千恵子、太田弥寿雄、前田文生、繭山紀子、鶴田芙紗子、田生文男、磯崎賢市、小栗尚文、飛田邦子、河合新一、圓谷洋子、木谷恭子、大嶽昇一、菊地純子、柿本豊、鈴木満佐子、木村周一、伊代弘道、柴田廸春、柴田悦、

### カンパしてくださった方々（敬称略）

前田文生、鶴田芙紗子、磯崎賢市、小栗尚文、鈴木満佐子、宮田みどり、柴田廸春、柴田悦、  
・ 12月16日現在

## ひとこと

**小林千恵子** 行動していません。皆さんのご活躍に感謝いたします。

**鶴田芙紗子** お世話になっております。些少でございますが…。

**圓谷洋子** 介護と、我が身体を守ることで精一杯です。今年度にて退会させていただきます。ありがとうございました。

**大嶽昇一** 限界集落にて農作業を営む大嶽含め、住人たちは物価高や税金等、又、地域コミュニティも崩壊、本当に凄まじい社会に生きていますね。JR東海の仕事も含め寝る時間ありません。これが地方の現実！

**鈴木満佐子** 戦争を始めさせてはいけません。

**宮田みどり** 第5回東アジア海外研修旅行でお世話になった本村さんの訃報に言葉がありません。「お別れの会」予定があればお知らせいただければ…と思います。連合の芳野会長への不信から会費納入遅れていました。申し訳ありません。

## 編集後記

- ☆ 岸田自公政権の暴政に怒り心頭です。安倍元首相の国葬の強行、原発推進、マイナンバーカード健康保険証、敵基地攻撃能力、軍事費倍増、軍備増税、統一教会との癒着など目に余る所業です。今号で、不公平税制を取り上げましたが、税は取るべきところから取り、軍事費に使わなければ私たちの生活、福祉は向上します。
- ☆ 東京都が強行したスピーキングテストは、隣の受験生の回答が聞こえてしまうなど、受験した中学生からも疑問と不安が数多く寄せられています。これをフィリピンで採点するわけですから新たに多くの問題が噴出することは明らかです。被害を受けるのは中学生、直ちに中止すべきです。
- ☆ 杉田水脈参議院議員・総務省政務官の目に余るヘイトスピーチ。国会で追及され総務大臣の指示で謝罪しましたが差別と認めず、被害を受けたアイヌ民族などのマイノリティー女性にも謝罪しません。都退教協として政府に抗議と辞任の申し入れをしました。
- ☆ 厳しい寒さとコロナ感染の第8波が襲っています。会員の皆様、くれぐれもお大事になさってください。  
(谷口記)